

ぬつたり

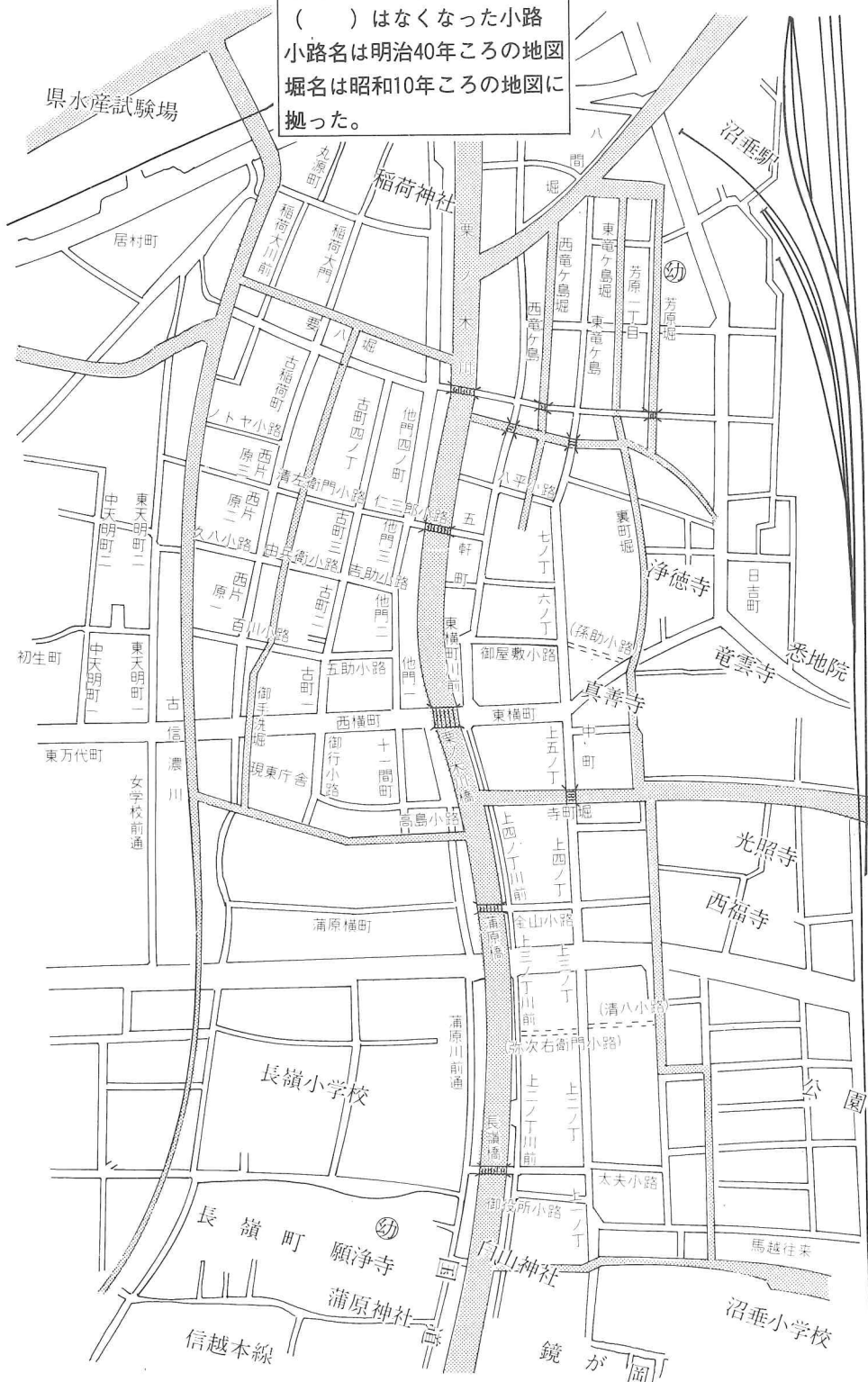
沼垂定住三百年記念誌

沼垂定住三百年祭実行委員会



沼垂の小路と堀

() はなくなった小路
 小路名は明治40年ころの地図
 堀名は昭和10年ころの地図に
 拠った。



てられていった。

昭和十一年に新潟硫酸(株)(現・サン化学)がここに工場を建設したのを皮切りに、現在まで北越製紙、三菱ガス化学、日本鋼管、旭カーボンなどの大工場が建設され、かつての潟は臨港工業地域に姿を変えている。



昭和45年ころ 舗装工事中の栗ノ木川バイパス
—明石通り交差点付近(笹川勇吉氏提供)

(5) 栗ノ木川の埋め立て

沼垂町の中央を南北に貫いて、片側それぞれ三車線の自動車道が走っている。いわゆる栗ノ木川バイパスだが、正式には明石通り交差点以北は県道新潟港—沼垂線、以南は国道七号線である。

かつてこの道が、江戸時代以来沼垂町と近隣の村々を結ぶ舟運の幹線水路であり、横越島(亀田郷)の悪水排除の役割を担った重要な河川だったことは記憶に新しい。

戦後、新潟と沼垂の地盤沈下が進み、とりわけ昭和三十九年の新潟地震により事態は一層悪化した。県では震災復旧事業として「東新潟地区河川対策」を策定、四十年から事業に着工した。それまで新、旧栗ノ木川で排水していた鳥屋野潟の水を、潟の西部の親松地区に新しく排水路を作り直接信濃川へポンプで排水することにした。その結果、排水路としての栗ノ木川は要らなくなるので、鳥屋野潟への分岐点から下流を埋め立て道路とすることになった。四十三年に埋め立てられ、舗装されて国道四十九号線になったのは四十六年のことである。その後新潟バイパスの開通により、紫竹山インターでこれと結ばれた。なお、紫竹山インター以南の亀田バイパス開

通により、国道四九号線もこちらに切り替えられた。

交通体系の変化により、すべての幹線道路から外された沼垂町で、栗ノ木川バイパスは、その重要度をますます高めて行くに相違ない。

なお、栗ノ木川埋め立ての基となった「東新潟地区河川対策」の事業骨子は次のようなものであった。

(1) 東新潟地区全河川の水位を下げる低水位方式を採用する。

(2) 親松に排水機を設け、鳥屋野潟へ集まる水を信濃川へ排水する。

(3) 馬越以北の栗ノ木川を埋め立てて道路とし、新栗ノ木川の川幅を三〇メートルに狭めるとともに水位を下げる。

(4) 通船川は中央付近に水門を設けて川を二分し、東側に農業排水を集め津島屋から排水、西側に都市排水

を集め山ノ下から排水する。山ノ下に二重水門を設けて水位を調節し船やいかだの通行の便を図る。

(三) 産業と経済の進展

(1) 沼垂町産業の概況

明治初期に作られた「皇国地誌」によると、沼垂・長嶺では農業と工業、蒲原では商業と雑業が大きな割合を占めている。全体としては、農工の比率が大きく、工業はみそ・しょう油などの生活必需品の生産が主体であったと思われる。

明治中期になると、舟運の便がよく新潟港に近いうえ、工場敷地となる原野が多いことなどから各種の工業が発展してくる。このような工業の発展につれ、人口も急激

表5 年次別・大字別・戸数・人口推移表

年次	沼垂		蒲原		長嶺		流作場		山ノ下		合計	
	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口
明治 二十一年	一、四二〇	二、八四一	(一一八)	(六〇〇)	(七〇)	(三三〇)	(六)	(三〇五)	(四八)	(一一〇)	一、四二〇	二、八四一
明治 二十二年	一、四二六	二、八四四	一一六	六五三	七一	四一五	六七	三六九	五七	三七七	一、四二六	二、八四四
明治 二十三年	一、四四八	二、八四七	一二六	六五七	七二	四二五	七三	三九四	五八	三九四	一、四四八	二、八四七
明治 二十四年	一、四七二	二、八五〇	一三六	六六二	七三	四二五	七三	三九四	五八	三九四	一、四七二	二、八五〇
明治 二十五年	一、四八四	二、八五二	一四六	六六六	七四	四二九	七四	四〇二	五九	四〇二	一、四八四	二、八五二
明治 二十六年	一、四九六	二、八五五	一五七	六七〇	七五	四三〇	七五	四〇三	六〇	四〇三	一、四九六	二、八五五
明治 二十七年	一、五〇八	二、八五八	一六八	六七三	七六	四三三	七六	四〇六	六一	四〇六	一、五〇八	二、八五八
明治 二十八年	一、五二〇	二、八六〇	一七八	六七五	七七	四三五	七七	四〇八	六二	四〇八	一、五二〇	二、八六〇
明治 二十九年	一、五三二	二、八六二	一八八	六七七	七八	四三六	七八	四〇九	六三	四〇九	一、五三二	二、八六二
明治 三十年	一、五四四	二、八六四	一九八	六七九	七九	四三八	七九	四一一	六四	四一一	一、五四四	二、八六四
明治 三十一年	一、五五六	二、八六六	二〇八	六八一	八〇	四四〇	八〇	四一三	六五	四一三	一、五五六	二、八六六
明治 三十二年	一、五六八	二、八六八	二一八	六八三	八一	四四二	八一	四一五	六六	四一五	一、五六八	二、八六八
明治 三十三年	一、五八〇	二、八七〇	二二八	六八五	八二	四四四	八二	四一七	六七	四一七	一、五八〇	二、八七〇
明治 三十四年	一、五九二	二、八七二	二三八	六八七	八三	四四六	八三	四一九	六八	四一九	一、五九二	二、八七二
明治 三十五年	一、六〇四	二、八七四	二四八	六八九	八四	四四八	八四	四二一	六九	四二一	一、六〇四	二、八七四
明治 三十六年	一、六一六	二、八七六	二五八	六九一	八五	四五〇	八五	四二三	七〇	四二三	一、六一六	二、八七六
明治 三十七年	一、六二八	二、八七八	二六八	六九三	八六	四五二	八六	四二五	七一	四二五	一、六二八	二、八七八
明治 三十八年	一、六四〇	二、八八〇	二七八	六九五	八七	四五四	八七	四二七	七二	四二七	一、六四〇	二、八八〇
明治 三十九年	一、六五二	二、八八二	二八八	六九七	八八	四五六	八八	四二九	七三	四二九	一、六五二	二、八八二
明治 四十年	一、六六四	二、八八四	二九八	六九九	八九	四五八	八九	四三一	七四	四三一	一、六六四	二、八八四
明治 四十一年	一、六七六	二、八八六	三〇八	七〇一	九〇	四六〇	九〇	四三三	七五	四三三	一、六七六	二、八八六
明治 四十二年	一、六八八	二、八八八	三一八	七〇三	九一	四六二	九一	四三五	七六	四三五	一、六八八	二、八八八
明治 四十三年	一、七〇〇	二、八九〇	三二八	七〇五	九二	四六四	九二	四三七	七七	四三七	一、七〇〇	二、八九〇
明治 四十四年	一、七一二	二、八九二	三三八	七〇七	九三	四六六	九三	四三九	七八	四三九	一、七一二	二、八九二
明治 四十五年	一、七二四	二、八九四	三三八	七〇九	九四	四六八	九四	四四一	七九	四四一	一、七二四	二、八九四
明治 四十六年	一、七三六	二、八九六	三三八	七一〇	九五	四七〇	九五	四四三	八〇	四四三	一、七三六	二、八九六
明治 四十七年	一、七四八	二、八九八	三三八	七一二	九六	四七二	九六	四四五	八一	四四五	一、七四八	二、八九八
明治 四十八年	一、七六〇	二、九〇〇	三三八	七一四	九七	四七四	九七	四四七	八二	四四七	一、七六〇	二、九〇〇
明治 四十九年	一、七七二	二、九〇二	三三八	七一六	九八	四七六	九八	四四九	八三	四四九	一、七七二	二、九〇二
明治 五十年	一、七八四	二、九〇四	三三八	七一八	九九	四七八	九九	四五〇	八四	四五〇	一、七八四	二、九〇四
明治 五十一年	一、七九六	二、九〇六	三三八	七二〇	一〇〇	四八〇	一〇〇	四五二	八五	四五二	一、七九六	二、九〇六
明治 五十二年	一、八〇八	二、九〇八	三三八	七二二	一〇一	四八二	一〇一	四五四	八六	四五四	一、八〇八	二、九〇八
明治 五十三年	一、八二〇	二、九一〇	三三八	七二四	一〇二	四八四	一〇二	四五六	八七	四五六	一、八二〇	二、九一〇
明治 五十四年	一、八三二	二、九一二	三三八	七二六	一〇三	四八六	一〇三	四五八	八八	四五八	一、八三二	二、九一二
明治 五十五年	一、八四四	二、九一四	三三八	七二八	一〇四	四八八	一〇四	四六〇	八九	四六〇	一、八四四	二、九一四
明治 五十六年	一、八五六	二、九一六	三三八	七三〇	一〇五	四九〇	一〇五	四六二	九〇	四六二	一、八五六	二、九一六
明治 五十七年	一、八六八	二、九一八	三三八	七三二	一〇六	四九二	一〇六	四六四	九一	四六四	一、八六八	二、九一八
明治 五十八年	一、八八〇	二、九二〇	三三八	七三四	一〇七	四九四	一〇七	四六六	九二	四六六	一、八八〇	二、九二〇
明治 五十九年	一、八九二	二、九二二	三三八	七三六	一〇八	四九六	一〇八	四六八	九三	四六八	一、八九二	二、九二二
明治 六十年	一、九〇四	二、九二四	三三八	七三八	一〇九	四九八	一〇九	四七〇	九四	四七〇	一、九〇四	二、九二四
明治 六十一年	一、九一六	二、九二六	三三八	七四〇	一〇一〇	五〇〇	一〇一〇	四七二	九五	四七二	一、九一六	二、九二六
明治 六十二年	一、九二八	二、九二八	三三八	七四二	一〇一〇	五〇二	一〇一〇	四七四	九六	四七四	一、九二八	二、九二八
明治 六十三年	一、九四〇	二、九三〇	三三八	七四四	一〇一〇	五〇四	一〇一〇	四七六	九七	四七六	一、九四〇	二、九三〇
明治 六十四年	一、九五二	二、九三二	三三八	七四六	一〇一〇	五〇六	一〇一〇	四七八	九八	四七八	一、九五二	二、九三二
明治 六十五年	一、九六四	二、九三四	三三八	七四八	一〇一〇	五〇八	一〇一〇	四八〇	九九	四八〇	一、九六四	二、九三四
明治 六十六年	一、九七六	二、九三六	三三八	七五〇	一〇一〇	五一〇	一〇一〇	四八二	一〇〇	四八二	一、九七六	二、九三六
明治 六十七年	一、九八八	二、九三八	三三八	七五二	一〇一〇	五一二	一〇一〇	四八四	一〇一	四八四	一、九八八	二、九三八
明治 六十八年	一、一〇〇	二、九四〇	三三八	七五四	一〇一〇	五一四	一〇一〇	四八六	一〇二	四八六	一、一〇〇	二、九四〇
明治 六十九年	一、一〇二	二、九四二	三三八	七五六	一〇一〇	五一六	一〇一〇	四八八	一〇三	四八八	一、一〇二	二、九四二
明治 七十年	一、一〇四	二、九四四	三三八	七五八	一〇一〇	五一八	一〇一〇	四九〇	一〇四	四九〇	一、一〇四	二、九四四
明治 七十一年	一、一〇六	二、九四六	三三八	七六〇	一〇一〇	五二〇	一〇一〇	四九二	一〇五	四九二	一、一〇六	二、九四六
明治 七十二年	一、一〇八	二、九四八	三三八	七六二	一〇一〇	五二二	一〇一〇	四九四	一〇六	四九四	一、一〇八	二、九四八
明治 七十三年	一、一一〇	二、九五〇	三三八	七六四	一〇一〇	五二四	一〇一〇	四九六	一〇七	四九六	一、一一〇	二、九五〇
明治 七十四年	一、一一二	二、九五二	三三八	七六六	一〇一〇	五二六	一〇一〇	四九八	一〇八	四九八	一、一一二	二、九五二
明治 七十五年	一、一一四	二、九五四	三三八	七六八	一〇一〇	五二八	一〇一〇	五〇〇	一〇九	五〇〇	一、一一四	二、九五四
明治 七十六年	一、一一六	二、九五六	三三八	七七〇	一〇一〇	五三〇	一〇一〇	五〇二	一〇一〇	五〇二	一、一一六	二、九五六
明治 七十七年	一、一一八	二、九五八	三三八	七七二	一〇一〇	五三二	一〇一〇	五〇四	一〇一〇	五〇四	一、一一八	二、九五八
明治 七十八年	一、一二〇	二、九六〇	三三八	七七四	一〇一〇	五三四	一〇一〇	五〇六	一〇一〇	五〇六	一、一二〇	二、九六〇
明治 七十九年	一、一二二	二、九六二	三三八	七七六	一〇一〇	五三六	一〇一〇	五〇八	一〇一〇	五〇八	一、一二二	二、九六二
明治 八十年	一、一二四	二、九六四	三三八	七七八	一〇一〇	五三八	一〇一〇	五一〇	一〇一〇	五一〇	一、一二四	二、九六四
明治 八十一年	一、一二六	二、九六六	三三八	七八〇	一〇一〇	五四〇	一〇一〇	五一二	一〇一〇	五一二	一、一二六	二、九六六
明治 八十二年	一、一二八	二、九六八	三三八	七八二	一〇一〇	五四二	一〇一〇	五一四	一〇一〇	五一四	一、一二八	二、九六八
明治 八十三年	一、一三〇	二、九七〇	三三八	七八四	一〇一〇	五四四	一〇一〇	五一六	一〇一〇	五一六	一、一三〇	二、九七〇
明治 八十四年	一、一三二	二、九七二	三三八	七八六	一〇一〇	五四六	一〇一〇	五一八	一〇一〇	五一八	一、一三二	二、九七二
明治 八十五年	一、一三四	二、九七四	三三八	七八八	一〇一〇	五四八	一〇一〇	五二〇	一〇一〇	五二〇	一、一三四	二、九七四
明治 八十六年	一、一三六	二、九七六	三三八	七九〇	一〇一〇	五五〇	一〇一〇	五二二	一〇一〇	五二二	一、一三六	二、九七六
明治 八十七年	一、一三八	二、九七八	三三八	七九二	一〇一〇	五五二	一〇一〇	五二四	一〇一〇	五二四	一、一三八	二、九七八
明治 八十八年	一、一四〇	二、九八〇	三三八	七九四	一〇一〇	五五四	一〇一〇	五二六	一〇一〇	五二六	一、一四〇	二、九八〇
明治 八十九年	一、一四二	二、九八二	三三八	七九六	一〇一〇	五五六	一〇一〇	五二八	一〇一〇	五二八	一、一四二	二、九八二
明治 九十年	一、一四四	二、九八四	三三八	七九八	一〇一〇	五五八	一〇一〇	五三〇	一〇一〇	五三〇	一、一四四	二、九八四
明治 九十一年	一、一四六	二、九八六	三三八	八〇〇	一〇一〇	五六〇	一〇一〇	五三二	一〇一〇	五三二	一、一四六	二、九八六
明治 九十二年	一、一四八	二、九八八	三三八	八〇二	一〇一〇	五六二	一〇一〇	五三四	一〇一〇	五三四	一、一四八	二、九八八
明治 九十三年	一、一五〇	二、九九〇	三三八	八〇四	一〇一〇	五六四	一〇一〇	五三六	一〇一〇	五三六	一、一五〇	二、九九〇
明治 九十四年	一、一五二	二、九九二	三三八	八〇六	一〇一〇	五六六	一〇一〇	五三八	一〇一〇	五三八	一、一五二	二、九九二
明治 九十五年	一、一五四	二、九九四	三三八	八〇八	一〇一〇	五六八	一〇一〇	五四〇	一〇一〇	五四〇	一、一五四	二、九九四
明治 九十六年	一、一五六	二、九九六	三三八	八一〇	一〇一〇	五七〇	一〇一〇	五四二	一〇一〇	五四二	一、一五六	二、九九六
明治 九十七年	一、一五八	二、九九八	三三八	八一二	一〇一〇	五七二	一〇一〇	五四四	一〇一〇	五四四	一、一五八	二、九九八
明治 九十八年	一、一六〇	三、〇〇〇	三三八	八一四	一〇一〇	五七四	一〇一〇	五四六	一〇一〇	五四六	一、一六〇	三、〇〇〇
明治 九十九年	一、一六二	三、〇〇二	三三八	八一六	一〇一〇	五七六	一〇一〇	五四八	一〇一〇	五四八	一、一六二	三、〇〇二
明治 一〇〇年	一、一六四	三、〇〇四	三三八	八一八	一〇一〇	五七八	一〇一〇	五五〇	一〇一〇	五五〇	一、一六四	三、〇〇四

明治九年は推定年、「皇国地誌」による。明治二十一年は「新潟県市町村合併誌上巻」、明治三十五年は「中蒲原郡誌下」、大正二年は「新沼合併私録」による。

沼垂定住三
百年記念誌

ぬつたり

昭和五十九年十月二十五日印刷
昭和五十九年十月二十七日発行

編著者 代表 伊藤 鼎

発行者 沼垂定住三百年祭実行委員会

印刷所 株式会社 文久堂

〒951

新潟市礎町通六ノ町二三八〇番地

電話（〇二五二）代表二八―三〇八五